

2022 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	山田 恵	職名	助教	学位	修士 (人間関係学)
----	------	----	----	----	------------

研究分野	研究内容のキーワード
助産ケア アタッチメント 女性の健康支援	母子関係 アタッチメント 感性 寄り添う支援 女性の健康 プレコンセプションケア

研究課題
<ul style="list-style-type: none"> ・アタッチメントの問題、発達特性、未解決の葛藤を抱えている妊産褥婦に対する、助産師の寄り添う支援を具現化し、効果的な支援のあり方について考察していく。 ・思春期世代に対し、助産学生が行うプレコンセプションケアの意義と有効性について検討する。

担当授業科目
<p><助産別科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間関係とコミュニケーション (前期) ・助産診断・ケア学Ⅰ (妊娠期) (前期) ・助産診断・ケア学Ⅲ (産褥期) (前期) ・助産診断・ケア学Ⅵ (健康教育演習) (通年) ・ウイメンズヘルスケア (前期) ・助産学基礎実習 (前期) ・助産学実習Ⅱ (正常逸脱) (後期) <ul style="list-style-type: none"> ・助産学研究演習 (通年) ・助産診断・ケア学Ⅱ (分娩期) (前期) ・助産診断・ケア学Ⅳ (新生児・乳幼児期) (前期) ・助産診断・ケア学Ⅶ (助産過程演習) (前期) ・母子の心理・社会学 (前期) ・助産学実習Ⅰ (正常) (後期) <p><看護学科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・母性看護学演習 (前期) ・母性看護学実習 (後期) ・ウイメンズヘルス (前期)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 人間関係とコミュニケーション 】</p> <p>授業開始後間もない時期の開講であるため、学生同士のコミュニケーションが図れるよう体験学習や協同学習の技法を取り入れた。また、学生の自発性を高めるよう発言の機会を多くとった。時間内で学習した内容、理解した内容を文章化させ、「何となくわかった」から「このように理解した」とそれぞれの学びの内容を確認し、次回の講義に反映させた。</p>
<p>授業科目名【 ウイメンズヘルスケア 】</p> <p>事前課題を提示し、社会の動向から問題提起させ、全体で意見交換できるよう場の設定を行った。また、教科書の内容だけでなく、新たな知見や社会情勢からケアの対象の実像を具体的に説明し、現代社会が求める助産師の役割について考える機会とした。</p>
<p>授業科目名【 母子の心理・社会学 】</p> <p>他の科目と関連する部分が多いため、これまでの学習内容をふまえて発展させる形で組み立てた。現代社会における課題を実例をもとに解説し、助産師の役割や責務について考察する機会とした。</p>
<p>授業科目名【 助産診断・ケア学Ⅰ (妊娠期)、Ⅱ (分娩期)、Ⅲ (産褥期) Ⅳ、(新生児・乳児期) 】</p> <p>今年度は入学前の臨地実習経験や母性看護技術の実践に関して学生間でかなり差がみられた。そのため、例年以上に視聴覚教材などを活用した授業計画を立案した。また、知識を統合させ思考しながら実践できるよう、</p>

<p>演習の組み立てを行った。その際、演習計画はできるだけ詳細に立案し、公平性が保てるよう時間調整した。また、学生全体で意見交換する機会を設けた。</p>
<p>授業科目名【 助産診断・ケア学Ⅶ（助産過程演習） 】</p> <p>助産過程演習に対する準備状況を事前調査結果や面接などから把握し、個別指導に活かした。講義時間外でもできるだけ学生対応に努め、学習が円滑に進むよう支援した。</p>
<p>授業科目名【 助産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習） 】</p> <p>思春期の健康教育演習を担当した。カリキュラム改正とこれからの助産師に求められる内容を意識し、「プレコンセプションケア」「包括的性教育」の概念を中心に講義内容を組み立てた。また、助産学実習では経験できない集団指導を経験できるよう中高に依頼し、調整した。準備段階では、自発性とチーム力を身につけられるよう、企画立案から運営まで学生主体で行えるよう計画した。そのため、教員は統括チームのサポート的役割を担った。指導内容に関して中高の教育と齟齬が生じないよう指導案や教材の確認をくり返し行い、教育の質の保障をした。</p>
<p>授業科目名【 助産学実習（基礎）（正常Ⅰ）（正常逸脱Ⅱ） 】</p> <p>助産学基礎実習では2施設を同時に担当した。各施設の受け入れ条件が異なったため学内実習の計画立案や、実習指導者との調整を行い、施設間で学修状況に差が出ないよう支援した。</p> <p>助産学実習Ⅰでは県内実習と県外実習（各5週間）を担当した。学生に対しては常に連絡相談態勢を取り、毎日、実習終了後 meet を使用し面接し、実習の進捗状況や心身の体調把握に努めた。記録指導はメール上（パスワードかけ）で提出したものを早期に返却し、効果的に実習が進めていけるよう支援した。臨床指導者とは週に1回電話にて実習調整を行い、分娩介助例数10例到達に向け支援した。</p> <p>助産学実習Ⅱでは、受け入れ要件を遵守しながら目標到達できるよう指導者に働きかけ、学生が実践できる機会を設けた。</p>
<p>授業科目名【 母性看護学演習 】</p> <p>看護過程演習では23名の学生を担当した。2年次に学習した看護過程論から発展させる形で、学生の理解状況を確認しながら個別指導を行った。国家試験対策につながるよう教科書を活用した学習を意識させ、知識の獲得を図った。実技演習においては全員が平等に経験できるよう計画し、学生間で学び合えるよう協同学習の手法を用いた。</p>
<p>授業科目名【 母性看護学実習 】</p> <p>実習施設が3施設あり、それぞれ学生の受け入れ要件が異なっていたため、施設ごとの実習要領の見直しを行った。また、実習目標到達に向け、臨地で経験できない技術に関しては学内で実践する機会を設け、評価した。</p>
<p>授業科目名【 ウイメンズヘルス 】</p> <p>進行2「思春期の健康とウイメンズヘルス」、進行5「ジェンダーとウイメンズヘルス」を担当した。学生の身近な生活状況や体験を題材とすることで、自身の健康やジェンダー観を見つめ直す機会とした。また、文科省が勧めている「生命の安全教育」を取り入れた。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本助産学会	会員	1991年4月～現在
日本母性衛生学会	会員	1991年4月～現在
日本不妊カウンセリング学会	会員	2002年11月～現在
日本思春期学会	会員	2005年1月～現在
全国助産師教育協議会	会員	2014年4月～現在

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文) なし (報告書) 女子大学生を対象にした健康管理カルテの作成と有用性	共	2022.6	西南女学院大学 保健福祉学部附属保健福祉学研究所 2021 報告書	①女子学生の健康に対する意識を高め、学生の健康維持・増進に向けた学生支援の取り組みを実施するための方法として、「健康管理カルテ」の作成を行なった。今後、その有用性を調査し、改良を重ねることで、より学生にとって利用しやすい「健康管理カルテ」を作成する。 ②共著者名： 樋口由貴子, 水貝洵子, 山田恵, 目野郁子, 高崎智子, 大内田知英 ③ 西南女学院大学 保健福祉学部附属保健福祉学研究所 2021 報告書 (P6-7)
(翻訳)				
(研究報告会発表) 本学学生を対象にした「健康管理カルテ」の作成	共	2023. 3	2022 年度 西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所 報告会	①本学学生の健康維持・増進に向けた学生支援の取り組みとして「健康管理カルテ」を作成し、2021 年度保健福祉学部入学生および2022 年度大学部・短期大学部入学生へ配布した。また、本年度の使用状況について調査した。その結果、本学学生は健康管理カルテを体調不良時や実習前に活用していることが明らかとなった。また、学生にとってより利用しやすくなるよう今後の健康管理カルテの運用方法について考察した。 ②共著者名： 水貝洵子, 山田恵, 樋口由貴子,

2022年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				目野郁子, 高崎智子, 大内田知英
				教育研究業績 総数 (2022. 3. 31 現在) 著書 4 (内訳 単1, 共3) 学術論文1・報告書2 (内訳 共3) 学会発表 18 (内訳 共18)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
本学学生を対象にした健康管理カルテの作成	西南女学院大学 保健福祉学部附属 保健福祉学研究所 研究費	○水貝洵子 山田恵 樋口由貴子 目野郁子 高崎智子 大内田知英	300,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役職名等	任期 期間等

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

<別科学生募集他>

- ・2022年度のオープンキャンパス企画・運営担当
- ・助産別科ブログ担当

<別科業務>

- ・助産学生4名のアドバイザー担当
- ・クラス担任
- ・入学・卒業に関する業務（補佐）
- ・実習コーディネーター（補佐）

<学生支援>

- ・看護学科教員や保健室職員、事務職員の要請に応じて、看護学科学生及び職員等の健康相談を行った。関連する病院の紹介や連絡調整を図った。
- ・個々の女子学生の健康に対する意識を高め、大学として学生の健康維持・増進に向けた学生支援となるよう全学部1年生に「私の健康管理カルテ」を配布した。